

## 京都・大阪・神戸へのアクセスもスムーズで オフタイムも楽しく過ごせます

アクセスが良いのも当院の魅力のひとつ。

大阪（梅田・なんば）はもちろん、京都や神戸にも気軽に出かけることができます。

空港にも近いので、旅行や帰省もスムーズです。

神戸まで **56** 分



梅田まで **38** 分



京都まで **45** 分



# The University of Osaka Hospital

看護職員募集案内



### 阪大病院へのアクセス

- 大阪モノレール彩都線：「阪大病院前」下車
- JR東海道本線（京都線）：JR茨木駅から近鉄バス（阪大本部前行き）で「阪大医学部病院前」下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス（阪大本部前行き）で「阪大医学部病院前」下車
- Osaka Metro御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス（阪大本部前行き）で「阪大医学部病院前」下車



大阪大学医学部附属病院

THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL.06-6879-5111（代表）



大阪大学医学部附属病院

THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL



看護職員数 **1,278**名 病床数 **1086**床  
専門看護師 **7**名 認定看護師 **23**名 特定看護師 **20**名  
特定行為実践数 **1,551**件／年 平均外来患者数 **2,258**人／日 平均入院患者数 **892**人／日



副病院長・看護部長 鍋谷 佳子

## 高度医療の現場で 専門性と心のこもった あたたかみのある看護を

当院は、高度で専門性の高い医療を担う大学病院です。そのため看護師には質の高い看護実践が求められますが、多様な経験を積みながら成長し、将来の可能性を広げられることが大きな魅力です。

それを支えているのが、クリニカルラダーを軸とした教育体制とキャリア支援体制です。教育面では教育支援室が中心となり、少人数の研修をはじめとする多様なプログラムを通じて、きめ細かな指導を行っています。また、各病棟の教育担当者と連携し、実践に必要な知識と技術を着実に身につけられる環境を整えています。キャリア形成においても、看護部キャリア開発センターがそれぞれの目標に応じてサポートしています。

私たちが目指す看護師像は、「安心・安全な看護を提供できることに加え、患者さんやご家族に寄り添える豊かな人間性を備えた看護師」です。また、チーム医療の一員として、仲間と協力しながら力を発揮できる協調性やコミュニケーション力も重視しています。

看護のやりがいは、自ら学び、成長した先に患者さんの笑顔や感謝の言葉に出会えることであり、それは何ものにも代えがたい喜びです。これから当院を目指すみなさんには、患者さんに関心を持ち、前向きに取り組む姿勢を大切にしてほしいと考えています。一人ひとりの夢の実現や挑戦を、私たちも全力で支えていきます。

## 患者さんとともに歩む看護をめざして

大阪大学医学部附属病院 看護部がめざすこと

### 看護部の理念

先進的で高度な医療に対応した安全で質の高い看護を提供すると共に、豊かな人間性と高度な知識・技術をもった専門職者の育成と看護の発展に寄与する。

### 基本方針

患者の権利を尊重し、患者とともに歩む看護の実践

患者を全人的に捉え、心のこもったあたたかみのある適切なケアの提供

優れた専門職者育成による社会・地域医療への貢献

看護の質向上と業務改善に繋がる臨床看護研究の推進

### めざす 看護師像

専門的知識・技術をもって、対象の必要に応じて根拠に基づいたケアが提供できる

自己のキャリア開発に積極的に取り組み、自己の目標を達成することができる

人間性・社会性に富み、医療人、組織人としての責務を果たすことができる



# 看護師としての第一歩を踏み出す

## 新人教育年間計画

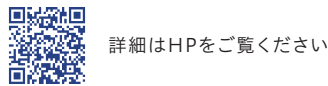
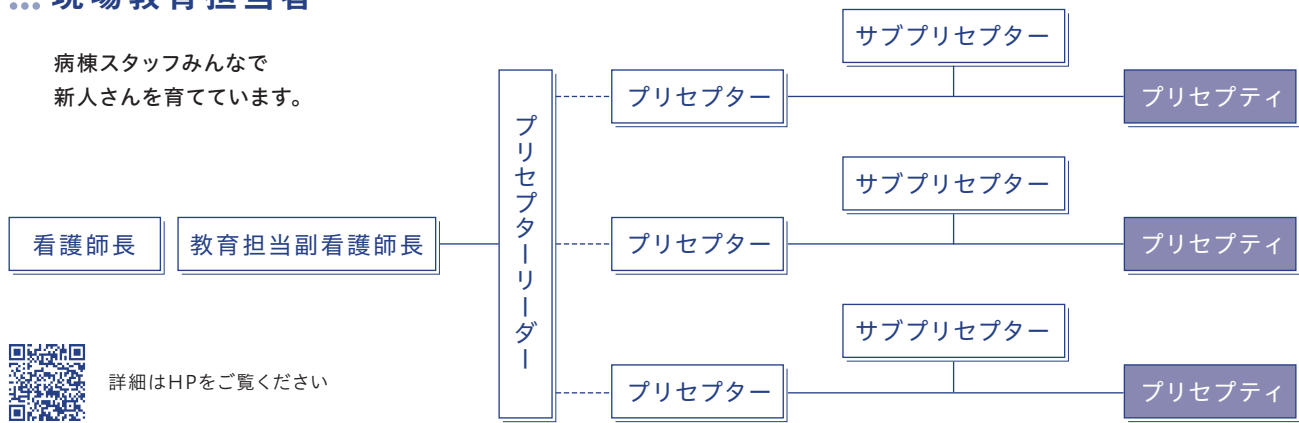


### 「バンビシール」

臨床経験の少ない新人看護師は、1年間「バンビシール」を名札に貼ります。目的は、看護師としての自覚をもつため、そして所属する病棟以外のスタッフに新人であることを周知して、指導・サポートを受けられるようにするためです。患者さんやご家族も新人看護師と知ること、あたたかく見守ってくださいます。

## 現場教育担当者

病棟スタッフみんなで新人さんを育てています。



詳細はHPをご覧ください

## 先輩看護職員からのメッセージ

message

1年目



東3階病棟(腎臓内科)

2026年入職

高度な医療に携わり、多様な知識と技術を習得したいと考え、当院に魅力を感じました。入職後は、集合研修や少人数での実践的な学習など、教育体制の充実を実感しています。病棟では、プリセプターさんをはじめ先輩方が、新人一人ひとりの課題に応じて勉強会を開くなど、親身になってサポートして下さいます。入職当初は目の前の業務に精一杯でしたが、少しずつ患者さんの状態やまわりの状況を考えながら動くことが増え、自信につながっています。

1年目



統合診療棟6階(アイセンター)

2026年入職

当院のインターンシップで、先輩方の丁寧な看護に感銘を受け、志望しました。私が所属するアイセンターでは、外来・病棟・手術に関わりながら幅広い経験を積めます。視力が低下した患者さんの生活支援や退院後を見据えた指導も求められますが、さまざまな研修を通じて段階的に学べます。疲労度調査などサポートも手厚く、安心して働ける環境です。患者さんからの「ありがとう」という言葉を励みに、看護師としての基盤を築き、自分の強みを伸ばしていきたいです。

2年目



統合診療棟4階(第一ICU)

2025年入職

重症患者さんの力になりたいという想いから、ICUでの勤務を希望しました。ICUでは、人工呼吸器や心臓のはたらきを支える補助循環装置を装着した患者さんも多く、全身状態を観察しながら急変の兆候を的確に捉えることが重要です。習得すべきスキルはたくさんありますが、ICU独自のチェックリストに沿って学べるほか、先輩方の丁寧な助言もあるので安心です。2年目となり、自分で考えて動く場面が増えました。今後は患者さん目線を大切にできる看護師を目指したいです。

## 新人看護職員研修担当者からのメッセージ

message



### 看護教育支援室 教育専従者

新人教育の目的は、先進的で高度な医療に対応できる看護職員となる土台を築くことです。そのために、心のこもったあたたかみのある適切なケアの提供を目指して、患者さんに関心を持てる看護師に成長できるように研修を実施しています。また、専門家から直接的な指導を受けたり、様々なシミュレーターでトレーニングもできます。集合研修ではリアルなシチュエーションをもとにしたシミュレーションでそれぞれの課題を一緒に考えます。その課題を達成できるように現場の指導者と連携しています。そして、現場教育ではプリセプターを中心に部署全体で新人看護師をサポートし、それぞれの能力に合わせて成長していくように支援します。



様々な分野の専門看護師と認定看護師が  
実践のスペシャリストとして活躍

**褥瘡・ストーマケアの専門性を高めながら、看護部全体の質向上に貢献する**

創傷ケアに関心があり、看護部キャリア開発センターの研修を受講するなかで、褥瘡回診に携わることに。そこで専門性をさらに高めたいという想いが強くなり、皮膚・排泄ケア認定看護師を目指しました。その際、上司の後押しや支援制度が大きな支えになりました。

現在は専従として、創傷・ストーマケアの実践や病棟看護師へのコンサルテーション、リンクナースの育成に取り組んでいます。認定看護師となり、自分自身の看護だけでなく、看護部全体の質向上に貢献したいという意識が高まったことが大きな変化です。一つひとつの言動にこれまで以上の責任が伴いますが、それをやりがいとして日々活動しています。

*interview*



看護実践支援室  
皮膚・排泄ケア認定看護師



専門・認定・特定看護師

|             |    |                |    |               |    |            |     |
|-------------|----|----------------|----|---------------|----|------------|-----|
| がん看護専門看護師   | 3人 | 感染管理認定看護師      | 5人 | クリティカルケア認定看護師 | 3人 | 脳卒中看護認定看護師 | 1人  |
| 精神看護専門看護師   | 1人 | 皮膚・排泄ケア認定看護師   | 2人 | 不妊症看護認定看護師    | 1人 | 糖尿病看護認定看護師 | 1人  |
| 在宅看護専門看護師   | 1人 | 緩和ケア認定看護師      | 2人 | 心不全看護認定看護師    | 1人 | 手術看護認定看護師  | 2人  |
| 小児看護専門看護師   | 1人 | がん薬物療法看護認定看護師  | 2人 | 新生児集中ケア認定看護師  | 1人 | 特定看護師      | 20人 |
| 慢性疾患看護専門看護師 | 1人 | がん放射線療法看護認定看護師 | 1人 | 呼吸器疾患看護認定看護師  | 1人 |            |     |

**看護実践のスペシャリストを目指して**

当院の看護部の特長のひとつとして、特定の領域に関する専門的なスキルを備えた専門看護師や認定看護師をはじめとするスペシャリストが数多く在籍し、活躍していることが挙げられます。そして、入院患者さんだけでなく通院されている患者さんとそのご家族に対して、専門性の高い看護を提供するために看護専門外来を実施。2004年に糖尿病ケア・看護外

**看護専門外来**

来が開設されて以来、2011年にスキンケア外来、2019年に呼吸ケア・看護外来、2020年にリンパ浮腫看護外来が設けられました。

領域を問わず、どの外来もエビデンスに基づいた看護を展開するとともに、患者さんの良きパートナーとして一人ひとりが“その人らしく”暮らせる支援に取り組んでいます。

親元を離れての一人暮らしも、  
パパ・ママになってからも安心の環境

福利厚生

病院の敷地内外に看護職員用のワンルームマンションがあり、敷地内に女性専用、敷地外に大学職員用(男女入居可)があります。育児支援として大学敷地内に2つの保育園を設置しています。産後3年間の育児休業を取得できる他、短時間勤務制度を導入しており、子育て中の職員が働き続けられる体制を整えています。それ以外にも、夏期休暇や介護休業、退職手当と特別賞与のどちらかを選べる制度など、多様な支援を行っています。



看護師宿舎(7フロア)



たけのご保育園



生命科学図書館



最先端医療イノベーションセンター棟



看護師宿舎(外観)

*interview*



西6階病棟(小児外科)  
2009年入職

子どもとの時間を大切に  
好きな看護を続ける

2歳の子育てをしながら働いています。就職活動をしていた頃は育児支援に注目していませんでしたが、自分が母親になり、その大切さを実感しています。私は出産後、1年間の育児休業を取得し、子どもの成長を近くで見守ることができました。復帰にあたっては、大好きな小児看護に関わり続けたいという希望を聞いていただき、育休前と同じ部署で働いています。現在は時短制度や院内保育所を利用して、仕事と育児を両立できています。まわりのみなさんのサポートにも感謝しています。

育児を経験したことで保護者の気持ちをもっと理解できるようになり、その視点を看護に活かせることも増えてきました。育児と仕事の両立は大変なこともありますが、それぞれに喜びを感じながら充実した毎日を送っています。

